

大学院生プロジェクト型研究・研究成果報告書

研究代表者：田中 悠登（臨床心理学コース）

■研究題目
二重拘束的体験が比喩検出に与える影響
■研究代表者・分担者（氏名、コース）
田中 悠登（臨床心理学コース・博士課程後期1年）（代表者）
■研究成果概要（目的、実施内容、結果、今後の課題など）
<p style="text-align: center;">問 題</p> <p>対人コミュニケーションでは、言語的、非言語的な情報を通じて意図や思考が伝達され、相互理解が形成される。しかしながら、提示された情報の一貫性が損なわれている場合、情報の受け手は発信者の意図や思考を理解することが困難になる。情報に矛盾が生じている相互作用の一つとして、二重拘束（double bind）が知られている。二重拘束とは統合失調症患者が比喩やユーモア、皮肉に代表される、複雑なメッセージに対する論理階型の識別に困難さを示したことから見出された現象である（Bateson et al, 1956）。</p> <p>二重拘束の特徴</p> <p>二重拘束理論の基盤には、論理階型の不整合という視点がある。それを説明する古典的な例として、「自発的であれ！（Be spontaneous!）」というメッセージが知られている（Ackerman, 1979）。本来、自発的な行動は第三者に促されて生起するものではない。仮に命令に従って行動したとしても、その行動は自発的とはいえない。表面上自発的な行動を促す指示は、本質的には特定の行動を要求する意味合いを持つ。つまり、「自発的であれ！（Be spontaneous!）」という命令は異なるレベルの論理階型を含むものであり、相反する情報が同時に生起しているために、メッセージの受け手はその意味を識別し、反応することが困難になる。加えて、二重拘束は先述した</p>

ような論理階型の不整合を含むメッセージが提示されるという単一的な次元のものではなく、二者以上の相互作用の中で生み出されるものとして理解されている (Ackerman, 1979)。たとえば、母親が子どもに対して愛情行動を示し、子どもが愛情行動を取ると、母親が体をこわばらせるといった状況を考える。この状況下では子どもは愛情とそれの否定という二つのメッセージを認識している。メッセージに含まれる矛盾を指摘することは、親に対する反抗として捉えられるリスクがあり、罰を恐れるあまり、子どもは適切な応答を示すことができず、パニック状態に陥ることが知られている。そして、親の行動が子どものためという意味合いが付加されることで、子どもは親の行動を非難することが一層困難になると考えられている。以上を踏まえると、Bateson et al (1956)が示した二重拘束は以下のような状況を指す。まず、メッセージの受け手（主に子ども）に対して否定的な命令が提示されると同時に、それとは反する抽象的な（もしくは、非言語的な）メッセージが提示される。さらに、受け手がそのメッセージの応答から逃れられないようなメッセージが加えられることで（たとえば、愛情表現）、受け手はどのような行動を取ったとしても問題解決に至らず、その状況から逃れられないことおよびネガティブな結果しか生じないことを認識し、パニック状態に陥る。二重拘束の連続により、受け手側、すなわち犠牲者 (victim) は暗示的なメッセージを警戒し、すべてのメッセージを字義どおりに受け取ったり、曖昧な状況に対してメタ的な発言をすることを回避したり、もしくは文脈にそぐわない比喻表現をしたりする (e.g. Bateson et al., 1956; Bateson, 1972; Hennestad, 1990)。そして、メッセージを正確に識別することが困難になり、すべてのコミュニケーションに対して二重拘束のパターンを取り入れるようになる (Hennestad, 1990)。

二重拘束的体験の視点

二重拘束の性質について様々な検討がなされているものの、家庭における二重拘束の蓄積やそれに対する認識を測定する指標が開発されておらず、二重拘束が現在の個人に対して与える影響を定量的に検討することが困難であった。そこで、田中・若島 (2025) は家庭における二重拘束の程度を測定する尺度の開発を試みている。その過程の中で、二重拘束を「家族成員からの矛盾を含むメッセージによって、回避-回避葛藤が引き起こされ、かつメタ認知的反応や反応拒否が不可能なコミュニケーション形態」と定義した。開発した項目の尺度の項目には、例えば、「喧嘩をして『家から出ていきなさい』と言われ、本当に出ていこうとすると怒られたことがある」といった項目が含まれている。「家から出ていきなさい」という情報と、「出ていくと怒られる」という、相反する情報が提示され、どちらのメッセージに対して反応を示しても、メッセージの受け手が否定されるという状況が表現されている。

尺度の妥当性検討を通して、家庭における二重拘束を認識しているほど、自己や他者に対する否定的な認識が形成されやすく、親子間の信頼関係が希薄化し、葛藤や対立が生じやすいことが示唆された。本研究では、二重拘束に関する網羅的理解を得るために、Bateson et al. (1956) と田中・若島 (2025) の定義双方を踏まえ、検討することとした。

本研究の目的

本研究では、不整合な論理階型が同時に成立する比喩表現 (metaphor) と皮肉表現 (irony) に対する二重拘束的体験の影響について議論した。これらの表現は、表現と意味の相違が明らかであり、非字義的な意味が生成される特殊な形式でありながらも、日常的に用いられている。したがって、二重拘束の蓄積は、暗示的な意味合いを含む比喩や皮肉の理解を阻害し (Bateson, et al., 1956)、ひいては対人交流を含む社会的適応に負の影響を与える可能性がある。しかしながら、二重拘束の蓄積やそれに対する認識が、現在の比喩表現や皮肉表現に対する理解や解釈に与える影響について、定量的に検討されていない。そこで本研究では、対人場面における比喩および皮肉の認識と、その意味を識別するプロセス、すなわち検出と解釈のプロセスにおいて、二重拘束的体験が及ぼす影響について明らかにすることを目的とする。場面想定法を用い、課題を独自に作成した上で、他者とのコミュニケーション場面における比喩および皮肉表現を提示し、調査協力者がそれらに対して適切性の高い解釈を選択できるかどうかを検討した。

二重拘束的体験の影響をより正確に把握するため、課題について以下のように設定した。二重拘束は矛盾したメッセージに対する応答の重要性が高く、矛盾の指摘や批判が困難な関係性にある場合に生じるとされている (e. g. Weakland, 1992)。そこで、架空の人物ではなく調査協力者自身の失敗場面を提示し、特定の人物を想起しながら回答するように求めることで、応答の重要性を高めることに注力した。加えて、想起した人物に対して、自身の意見を言うことができる関係にあるかどうか、発言のしやすさについて測定した。また、二重拘束はメッセージの論理階型を正確に識別する能力に負の影響を与えることが示されているため (e. g. Bateson et al, 1952)、二重拘束的体験の蓄積によってメッセージに対する自身の解釈や反応の適切性を肯定的に評価することが困難になると推察される。そこで、適切な回答を選択できたかどうか、その確信度についても測定した。本研究における仮説を以下に示す。

仮説 1：二重拘束的体験を認識しているほど、検出した比喩および皮肉表現に対して、適切性の低い解釈をする傾向にある。

仮説 2：二重拘束的体験を認識している，かつ想起した人物に対して発言しにくい場面では比喩および皮肉表現に対して適切性の低い解釈をする傾向にある。
仮説 3：二重拘束的体験を認識しているほど，比喩および皮肉表現に対する解釈の確信度が低い。

方 法

田中・若島（2025）に倣い，青年期に該当する 18-24 歳の成人を調査対象とした。他者との交流場面に用いられる比喩および皮肉表現の理解を確認する課題を独自に作成し，妥当性を検討した上で調査を実施した。

調査協力者と手続き

調査は 2025 年 9 月に実施した。日本の調査サービス「Freeasy」（<https://freeasy-survey.com/>）に登録しているモニタのうち，275 名の 18-24 歳に Web 調査を依頼した。調査協力者の基本属性（年齢，性別，家族との居住形態）について Table 1 に示す。不良回答を検出するために増田他（2019）の instructional manipulation check（以下，IMC とする）を追加し，IMC に回答したものと一様回答は分析の際に除外した。最終的に 136 名（ $Mage = 21.63 \pm 1.91$ ）の回答を分析対象とした。分析には IBM SPSS Statistics version 29 を使用した。なお，有意水準は 5% とした。

二重拘束的体験の測定 田中・若島（2025）が作成した二重拘束的体験尺度を使用した。本尺度は 1 因子 10 項目で構成され，「1. 全くあてはまらない—5. 非常にあてはまる」の 5 件法で回答を求めた。

倫理的配慮 調査協力者の匿名性ならびに回答の拒否や中断を保証し，調査回答における不利益は生じないこと，収集されたデータは本研究以外には用いられないこと等を画面上に提示した。上記の内容に同意した者のみ，調査に回答できるように設計した。本調査は，東北大学大学院教育学研究科研究倫理審査委員会の承認を得て実施された（ID：25-1-057）。

場面と解釈の作成

課題は親，友人，上司との交流場面における比喩や皮肉を含んだ発言を提示し，その解釈として適切だと思うものを選択させるものであった。場面と解釈の生成は大規模自然言語モデル（Large Language Models：LLM）である Chat GPT-5（無料版）を用いた。新規アカウントでログインし，メモリ機能をオフにした状態で使用した。比喩表現について，隠喩形式で提示した場合に比喩として認識されないリスクを考慮して直喩形式で提示した。また，表現の慣習化が進むと，主題と喩辞の類似性が

検出されやすくなる (Bowdle & Gentner, 2005)。したがって、日常的に用いられる表現であるあまり、特定の解釈が自動的に選択されやすく、文脈に応じた意味の検討が十分になされない可能性がある。そこで、本研究では、自動的に解釈が選択されるのを防ぐため、日常的にはあまり使用されない表現を作成した。Chat GPT-5 に入力したプロンプトを Table 2 に示す。親、友人、上司とのコミュニケーションを想定した場面を 10 個ずつ生成させ、その内 5 ずつを抽出した。選択肢は正答 1 つと、誤答 4 つで構成される計 5 つを作成した。文章の構成および表現を修正した後に臨床心理学を専攻する大学教員と内容的妥当性および選択肢の適切性について確認した。最終的に使用した場面と解釈を Table 3 と Table 4 に示す。場面はランダムな順序で提示した。続けて、親、友人、上司それぞれについて、特定の人物を想起した上で回答するように教示し、想起した人物に対して自身の言いたいことをどの程度言えるか、発言のしやすさを 5 段階で評価してもらった (1. 言いにくい—5. 言いやすい)。また、適切な回答を選択できたかどうか、その確信度についても 5 段階で評価してもらった (1. 全く自信がない—5. かなり自信がある)。

結 果

記述統計量および相関分析

各変数の記述統計量について Table 5 に示す。二重拘束的体験尺度は十分な内的整合性を示した ($\alpha = .87$, $\omega = .87$)。解釈適切性の変数について、提示した場面における適切性の高い解釈を選択した場合を 1、それ以外を選択した場合を 0 としてスコアリングしその合計得点を解釈適切性の変数 (以下、解釈適切性スコアとする) として使用した。解釈に対する確信度は加算平均値を使用した。なお、便宜上、親、友人、上司が登場した場面の解釈適切性スコアをそれぞれ、「親の解釈適切性スコア」、「友人の解釈適切性スコア」、「上司の解釈適切性スコア」と表記する。家族との居住形態を独立変数、二重拘束的体験尺度の加算平均値を従属変数とした対応のない t 検定を行った結果、群間で有意な差は確認されなかったため ($t(134) = 0.71$, $p = .478$, $d = .13$)、以降の分析では居住形態について統制せず、分析を行った。続いて、二重拘束的体験尺度の加算平均値と解釈適切性スコアおよび確信度の関連を検討するため、Pearson の積率相関係数を算出した (Table 6, Table 7)。相関関係の解釈は、 $r = \pm .50$ は強い、 $r = \pm .30$ は中程度、 $r = \pm .10$ は弱い、という Cohen (1988) の基準に準じた。相関分析の結果、比喩表現において、二重拘束的体験は上司の解釈適切性スコア以外と弱から中程度の負の関連を示した (合計 ; $r = -.243$, $p = .004$, 親 ; $r = -.217$, $p = .011$, 友人 ; $r = -.272$, $p = .001$)。一方で確信度とは有意な関連が確認されなかった。皮肉表現において、二重拘束的体験は友人の解釈適切性スコア以

外と弱から中程度の負の関連を示した（合計； $r = -.220, p = .010$, 親； $r = -.204, p = .017$, 上司； $r = -.253, p = .003$ ）。一方で、確信度とは有意な関連が確認されなかった。

二重拘束的体験の高低と解釈適切性スコアおよび確信度の比較

相関分析の結果を踏まえ、加算平均値の群間比較を行った群分けの基準について、二重拘束的体験尺度の加算平均値のヒストグラムを参照し（Figure 1）、高群、中群、低群に分類した。一定のサンプル数が確保できるように設定したところ、下位 25% に該当する 1.60 未満のデータを低群（ $n = 36$ ）、上位 25% に該当する 3.00 以上のデータを高群（ $n = 36$ ）、それ以外を中群（ $n = 64$ ）とした群分けが概ね妥当だと判断した。先述した 3 群を独立変数、比喩および皮肉表現の解釈適切性スコアと確信度を従属変数とした一元配置分散分析を行った。多重比較には Tukey の HSD 法を用いた。

比喩表現の解釈適切性スコアを従属変数とした場合、すべての従属変数において群間に有意な差が確認された（合計； $F(2, 133) = 6.82, p = .002, \eta_p^2 = .09$, 親； $F(2, 133) = 4.05, p = .020, \eta_p^2 = .06$, 友人； $F(2, 133) = 9.05, p < .001, \eta_p^2 = .12$, 上司； $F(2, 133) = 3.49, p = .033, \eta_p^2 = .05$ ）。多重比較の結果、高群は低群および中群と比較して合計（低群； $p = .014$, 中群； $p = .002$ ）、親（低群； $p = .037$, 中群； $p = .032$ ）、友人（低群； $p = .012$, 中群； $p < .001$ ）の解釈適切性スコアが有意に低く、高群は中群より上司の解釈適切性スコアが有意に低いことが確認された（ $p = .032$ ）。皮肉表現の解釈適切性スコアを従属変数とした場合、友人以外のスコアにおいて群間に有意な差が確認された（合計； $F(2, 133) = 4.19, p = .017, \eta_p^2 = .07$, 親； $F(2, 133) = 4.19, p = .017, \eta_p^2 = .06$, 上司； $F(2, 133) = 5.93, p = .003, \eta_p^2 = .08$ ）。多重比較の結果、高群は低群および中群と比較して、合計（低群； $p = .011$, 中群； $p = .051$ ）、親（低群； $p = .024$, 中群； $p = .042$ ）、上司（低群； $p = .005$, 中群； $p = .015$ ）の解釈適切性スコアが有意に低いことが確認された。比喩表現における確信度を従属変数とした場合、上司の確信度において群間に有意な差が確認された（上司； $F(2, 133) = 4.05, p = .020, \eta_p^2 = .06$ ）。多重比較の結果、高群は中群と比較して確信度が有意に低いことが確認された（ $p = .035$ ）。皮肉表現における確信度を従属変数とした場合、群間に有意な差は確認されなかった。

二重拘束的体験と発言のしやすさの交互作用

二重拘束的体験と想起した人物に対する発言のしやすさが比喩および皮肉表現の解釈およびその解釈の確信度に与える影響を検討するため、二重拘束的体験と発言のしやすさを独立変数、解釈適切性スコアと確信度を従属変数とした二要因分散分

析を行った。

親が登場する場面では、皮肉表現の解釈適切性スコアに対する二重拘束的体験の有意な主効果が確認された ($F(1, 130) = 3.88, p = .023, \eta_p^2 = .06$)。加えて、比喩および皮肉表現の解釈に対する確信度に対して、親への発言のしやすさの有意な主効果が確認された (比喩 ; $F(1, 130) = 9.34, p = .003, \eta_p^2 = .07$, 皮肉 ; $F(1, 130) = 9.33, p = .003, \eta_p^2 = .07$)。友人が登場する場面では、比喩表現の解釈適切性スコアに対する二重拘束的体験の有意な主効果が確認された ($F(2, 130) = 6.87, p = .001, \eta_p^2 = .10$)。加えて、比喩および皮肉表現の解釈に対する確信度に対して、友人への発言のしやすさの有意な主効果が確認された (比喩 ; $F(1, 130) = 10.09, p = .002, \eta_p^2 = .07$, 皮肉 ; $F(1, 130) = 7.83, p = .006, \eta_p^2 = .06$)。上司が登場する場面では、比喩表現の解釈適切性スコアに対する二重拘束的体験 ($F(2, 130) = 3.15, p = .046, \eta_p^2 = .05$) と上司に対する発言のしやすさ ($F(1, 130) = 10.47, p = .002, \eta_p^2 = .08$) の有意な主効果、および有意な交互作用が確認された ($F(2, 130) = 4.06, p = .019, \eta_p^2 = .06$)。単純主効果検定を行った結果、二重拘束的体験中群と高群において上司に発言がしにくいと評価している場合に、比喩表現の解釈適切性スコアが高いことが確認された (中群 : $F(1, 130) = 7.40, p = .007, \eta_p^2 = .05$, 高群 ; $F(1, 130) = 14.11, p < .001, \eta_p^2 = .10$)。皮肉表現の解釈適切性スコアに対して、二重拘束的体験の有意な主効果 ($F(2, 130) = 6.64, p = .002, \eta_p^2 = .09$) および交互作用が確認された ($F(2, 130) = 3.62, p = .03, \eta_p^2 = .05$)。単純主効果検定を行った結果、二重拘束的体験中群において、上司に発言がしにくいと評価している場合、皮肉表現の解釈適切性スコアが高いことが確認された ($F(1, 130) = 6.61, p = .011, \eta_p^2 = .05$)。比喩および皮肉表現に対する解釈の確信度に対して、有意な主効果および交互作用は確認されなかった。

考 察

本研究では、対人場面における比喩および皮肉表現の検出と解釈のプロセスにおいて、二重拘束的体験が及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。そこで場面想定法を用いて、他者とのコミュニケーション場面における比喩および皮肉表現を提示し、適切性の高い解釈を選択させた。

二重拘束的体験と比喩および皮肉表現の解釈との関連

相関分析の結果、二重拘束的体験と解釈適切性スコアの合計との有意な負の関連が示されたが、弱いものだった。そこで、二重拘束的体験の影響は単調に増大する線形的なものではなく、一定の水準を超えた場合に顕在化する非線形的なものである可能性が考えられた。群間比較を行った結果、二重拘束的体験を認識しているほ

ど、比喩および皮肉表現に対して適切性の低い解釈をする可能性が示唆された。特に、比喩表現では親、友人、上司といった異なる登場人物の場面においても比較的一貫した差が認められたことから、仮説1は概ね支持されたといえる。一方で、皮肉表現においては登場人物によって有意な差が認められない場合もあり、二重拘束的体験の影響は場面の文脈や関係性によって調整される可能性が示唆された。比喩理解は語義的、語用論的なプロセスが関与する一方で、皮肉理解には他者理解のプロセスが関与すること(Bohrn et al, 2012)、および発話者の属性や発言の文脈に応じて皮肉か否かの認識が異なることが示されていることから(katz & Pexman, 1997, Nilsen et al. 2011)、二重拘束的体験の影響が直接的に反映されにくい、もしくは発話者の属性や文脈に応じて異なる形で顕在化する可能性が考えられる。また、二重拘束的体験中群と低群に有意な差が確認されなかったことを踏まえると、二重拘束の影響は線形的に増大するのではなく、非線形的なものである可能性が高い。これはBateson et al.(1956)では指摘されていなかった点であり、二重拘束理論に関する新たな知見であるといえる。二重拘束が一概に論理階級の識別を困難にさせるわけではなく、一定の水準が存在している点については更なる定量的検討を重ね、知見を蓄積していく必要がある。

二重拘束的体験と発言のしやすさが解釈と確認度に与える影響

二要因分散分析の結果、親と友人が登場する場面では、二重拘束的体験と発言のしやすさの有意な交互作用が確認されず、上司が登場する場面では、二重拘束的体験中群および高群において、上司に対して発言がしにくいと評価しているほど、適切性の高い解釈を選択することが確認された。したがって、仮説2は支持されなかった。親子関係や友人関係は、その親密さゆえに他者の意図を深く考慮せずとも円滑なコミュニケーションが成立する発言のしやすさが前提となっている可能性が高い。その一方で、親子関係や友人関係と比較して、上司との関係は社会的なものであり、自己表現が制限されている上に、コミュニケーションにおける誤解や齟齬が対人葛藤に結びつきやすいといった一定のリスクを孕んでいるといえる。加えて、上司が皮肉を言う場面は、受け手にとってリスクが高い状況であるのは明らかである。したがって、二重拘束的体験を認識しているほど、本来であれば解釈に困難さを抱える傾向があるものの、上司との関係では慎重かつ正確な理解が求められるために、むしろ適切性の高い解釈が選択されたと考えられる。すなわち、二重拘束的体験は常に対人理解を阻害する要因として作用するのではなく、相互作用の文脈や関係性に応じて、相手の意図や思考を慎重に読み取る姿勢を促進する可能性がある。このことは、二重拘束的体験が特定の状況下では、適応的に機能し得る側面を併せ持つことを示唆しており、二重拘束的体験の理解には、対人関係の質や文脈を踏ま

えた検討が不可欠であるといえる。

二重拘束的体験と確信度にほとんど関連がみられず、多くの条件下で発言のしやすさとの交互作用も確認されなかったことから仮説3は支持されなかった。したがって、先述した通り二重拘束的体験は解釈に負の影響を及ぼすが、確信度というメタ認知的な自己評価には必ずしも関連しないことが示唆された。また、発言のしやすさは主に確信度と関連を示し、想起した人物に対して自身の意見を言いやすいと評価しているほど確信度が高いことが示唆された。つまり、二重拘束的体験は解釈の質に、発言のしやすさは心理的な側面に独立して関係しているといえる。さらに、二重拘束的体験の過剰な曝露は外界の認知的枠組みそのものを変容させ、解釈の適切性を検証し、修正する認知プロセスが十分に機能しない可能性が想定される。Bateson et al (1956) が指摘するように、他者の発言を二重拘束のパターンで認識しているとなれば、状況も踏まえて自身の解釈が妥当かどうかを判断する基準も歪むことになり、客観的に適切性が低いと捉えられる場合でも当事者は外的な状況を参照しながら解釈を修正するというプロセスが介在しない可能性も示唆された。総じて、本研究の結果は二重拘束的体験が比喻や皮肉表現といった不整合な論理階型を含む、複雑なメッセージに対する正確な理解を困難にする可能性が高いこと、その影響は線形的に増大するものではなく、一定の水準を超えた場合に顕在化する非線形的なものであることを示唆している。

これらの知見は対人コミュニケーションにおける不適応状態を家族相互作用の視点から理解するための一つの枠組みを提供するものである。つまり、不適応状態を個人内の問題として扱うのではなく、過去の家族相互作用に根差した認知的パターンとして理解することで、個人をより多面的に捉え、背景にある家庭環境を踏まえた支援の検討が可能になる。また、二重拘束的体験は臨床群に特有の現象ではなく、日常的な家族相互作用の中で内在化され得る体験として捉え直し、その影響を定量的に検討した点において臨床的意義を有するといえる。

本研究の限界と今後の展望

本研究の限界について以下に述べる。第一に、本研究で提示した場面の妥当性についてである。LLMを使用して場面の作成し、臨床心理学を専攻する大学教員と協議した上で使用する場面を選定したが、その妥当性について統計的分析を経て検討されたものではない。本研究では内在化された二重拘束のコミュニケーションパターンを表出させるために、対人場面における複雑なメッセージを提示することを重視し、日常的に用いられ、容易に理解できる表現ではなく、なじみのない比喻および皮肉表現の作成を試みた。したがって、解釈適切性スコアの低さが表現自体の複雑さの影響を受けている可能性を否定しきれない。ゆえに、一般化可能性が担保さ

れた場面を開発し、二重拘束的体験の影響をより正確に抽出することが求められる。第二に、発言のしやすさを測定する手続きについてである。本研究では二重拘束における矛盾に対する指摘や批判の困難さを直接的に測定するために、調査協力者には想起した人物に対する発言のしやすさを評価するように求めた。加えて、発言のしやすさという観点に絞ることで、親や友人、上司との関係における権威構造や上下関係の影響を排した検討を可能にした。しかしながら、発言のしやすさは解釈適切性スコアや確信度と概ね関連しなかったことや二重拘束的体験との交互作用が確認されなかったことを踏まえると、指標として妥当性の低いものだったと考えられる。想起した人物に対する発言のしやすさを評価させるだけでなく、提示した場面の文脈を踏まえ、総合的に評価した応答の困難さを測定することが望まれる。さらに、二重拘束における応答の困難さに関連する要因として、家族成員に対する内在化された依存 (Weakland, 1976)、および家族のもつ潜在的な生存的価値 (Sluzki et al., 1967) が知られている。発言のしやすさだけでなく、想起した人物との関係に付与される価値について測定することで二重拘束における心理的メカニズムをより精緻に明らかにできる可能性がある。第三に、二重拘束的体験高群の基準についてである。現時点での基準はデータの分布に依存しているため、妥当性の高い基準を設定するために更なるデータの蓄積が望まれる。

引用文献

- Ackerman, B. L. (1979). Relational paradox: toward a language of interactional sequences. *Journal of Marital and Family Therapy*, 5, 29-38. <https://doi.org/10.1111/j.1752-0606.1979.tb00551.x>
- Bateson, G., Jackson, D. D., Haley, J., & Weakland, J. (1956). Toward a theory of schizophrenia. *Behavioral Science*, 1(4), 251-264. <https://doi.org/10.1002/bs.3830010402>
- Bateson, G. (1972). *Steps to an ecology of mind: Collected essays in anthropology, psychiatry, evolution, and epistemology*. Jason Aronson.
- Bohrn C, I., Altmann, U., & Jacobs, M, A. (2012). Looking at the brains behind figurative language—A quantitative meta-analysis of neuroimaging. *Neuropsychologia*, 50(11), 2669-2683. <https://doi.org/10.1016/j.neuropsychologia.2012.07.021>
- Bowdle, B. & Gentner, D. (2005). The Career of Metaphor. *Psychological Review*, 112, 193-216. <https://doi.org/10.1037/0033-295X.112.1.193>
- Cohen, J. (1988). *Statistical power analysis for the behavioral sciences* (2nd ed.). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Hennestad B.W. (1990). The symbolic impact of double bind leadership: double bind and the dynamics of organizational culture. *Journal of Management Studies*, 27(3), 265-280. <https://doi.org/10.1111/j.1467-6486.1990.tb00247.x>
- Katz, A. N., & Pexman, P. M. (1997). Interpreting figurative statements: Speaker occupation can change metaphor to irony. *Metaphor and Symbol*, 12(1), 19-41. https://doi.org/10.1207/s15327868ms1201_3
- 増田 真也・坂上 貴之・森井 真広 (2019). 調査回答の質の向上のための方法の比較 心理学研究, 90(5), 463-472. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.90.18042>
- Nilsen, S. E., Glenwright, M., & Huyder, V. (2011). Children and Adults Understand That Verbal Irony Interpretation Depends on Listener Knowledge. *Journal of Cognition and Development*, 12(3), 374-409. <https://doi.org/10.1080/15248372.2010.544693>
- Sluzki, C. E., Beavin, J., Tarnopolsky, A. & Veron, E. (1967). Transactional disqualification. *Archives of General Psychiatry*, 16(4), 494-504. <https://doi.org/10.1001/archpsyc.1967.01730220106014>
- 田中 悠登・若島 孔文 (2025) 二重拘束的体験尺度の作成および信頼性・妥当性の検討 家族心理学研究, 38 (2) , 132-142.
- Weakland, J. H. (1976). *The double bind hypothesis of schizophrenia and three-party interactions*. In J. D. Don (Ed), *The etiology of schizophrenia*. (pp. 373-388). New

York: Basic Books

Weakland, J.H. (1992). The Development and Significance of The Double-Bind Theory.

Japanese Journal of Family Psychology, 6, 25-36. https://doi.org/10.57469/jafp.6.3_25

付 録

Table 1 調査協力者の基本属性

	<i>n</i> (%)		<i>n</i> (%)	
年齢 (歳)			性別	
	18	11 (8.1)	男性	46 (33.8)
	19	13 (9.6)	女性	90 (66.2)
	20	18 (13.2)	家族との居住形態	
	21	14 (10.3)	実家暮らし	91 (66.2)
	22	24 (17.6)	一人暮らし	45 (33.8)
	23	30 (22.1)		
	24	26 (19.1)		
職業				
会社員 (正社員)	34	(25.0)		
会社員 (契約・派遣社員)	3	(2.2)		
公務員 (教職員を除く)	3	(2.2)		
自由業	1	(0.7)		
学生	68	(50.0)		
パート・アルバイト	17	(12.5)		
無職	9	(6.6)		
その他	1	(0.7)		

注) 一人暮らしは配偶者・パートナー・友人等の同居を含む

Table 2. 場面と解釈の生成に使用したプロンプト

	比喩表現	皮肉表現
設定	比喩表現を含む発言に対して適切な解釈を選択させる場面想定法を用いたテストを作成します。18歳以上の成人を対象とします。以下の指示を必ず遵守してください。	皮肉表現を含む発言に対して適切な解釈を選択させる場面想定法を用いたテストを作成します。18歳以上の成人を対象とします。以下の指示を必ず遵守してください。
目的	発話の文脈に即した比喩の意味を適切に推論できるかどうかを評価することを目的とします。	発話の文脈に即した皮肉の意味を適切に推論できるかどうかを評価することを目的とします。
問題構成	問題数は30問です（発話者は親、友人、職場の上司を想定し、各10問）。 「調査協力者が失敗する場面」を3文で説明した後、発話者が調査協力者の性格や行動を喩えた比喩表現を言います。比喩表現は直喩（○○は××のようだ）または隠喩（○○は××だ）とします。 日常会話で耳にすることがある範囲で、複数の解釈が可能な表現を用いてください。ただし、皮肉とことわざの使用は禁止します。 発言の意図（比喩の意味）を最も適切に解釈している選択肢を1つ選ぶ形式にしてください。	問題数は30問です（発話者は親、友人、職場の上司を想定し、各10問）。 「調査協力者が失敗する場面」を3文で説明した後、発話者が表面的には肯定的で褒めているように見えるが、実際には批判的意味を持つ皮肉表現を言います。その表現は調査協力者自身の性格や行動を表すものとします。 発言の意図（皮肉の意味）を最も適切に解釈している選択肢を1つ選ぶ形式にしてください。
回答形式	1つが正しい比喩解釈、4つはもっともらしいが文脈とずれた解釈、誤答は「字義通りの解釈」「失敗と関係のない解釈」など、混乱しやすいものを作成してください。難易度は推論や思考を要するレベルにしてください。	1つが正しい皮肉解釈、4つはもっともらしいが文脈とずれた解釈、誤答は「本当に褒めている」「励まし」「失敗と関係のない解釈」など、混乱しやすいものを作成してください。難易度は推論や思考を要するレベルにしてください。

Table 3. 提示した場面とその解釈（比喩表現）

登場人物	場面	解釈
親	あなたは親を旅行に誘いましたが、忙しいという理由で断られました。断られたことを不満に思ったあなたは不貞腐れて部屋にこもりました。その様子を見て、親が言いました。 親：「あなたはガラス細工のようだね。」	1. 綺麗なものに喩えることであなたの機嫌を直そうとしている。 2. <u>あなたは非常に繊細な性格である。</u> 3. あなたはキラキラと目立つ存在である。 4. あなたは気難しい性格である。 5. 突拍子もない表現をすることで、あなたの気を引こうとしている。
	あなたは雨の日に転んで泥だらけになった上に、財布を無くしてしまいました。その様子を見て、親は言いました。 親：「あなたは磁石のようだね。」	1. <u>失敗や問題ごとを次々に呼び込んでしまう。</u> 2. 泥だらけになった姿が磁石のような色をしている。 3. 人を惹きつける魅力的な存在である。 4. 斬新な表現を言うことで場を和ませようとしている。 5. ゴミやホコリが体にまとわりついている。

	<p>あなたは家族との旅行中、目に留まったものに逐一興味関心を示したため、計画通りに観光地を回ることができませんでした。その様子を見て、親が言いました。 親：「あなたは風に吹かれる木の葉のようだね。」</p>	<p>1.あなたは気分を一定に保つ努力をするべきである。 2.あなたの行動はかなり不可解である。 <u>3.あなたの行動は行き当たりばったりである。</u> 4.風向きを含め、天候が旅行の展開を大きく左右する。 5.あらゆるパターンを想定した上で計画を立てる重要性を伝えている。</p>
	<p>あなたは親に買い出しを頼まれていましたが、そのことをすっかり忘れて帰宅してしまいました。その時、親が言いました。 親：「あなたはひび割れたコップのようだね。」</p>	<p>1.あなたは非常に繊細な性格である。 2.あなたの体調を心配している。 3.一旦休養して、体調を回復させることが重要である。 4.あなたに多くのことを頼みすぎたと反省している。 <u>5.あなたは言われたことがすぐに抜け落ちてしまう。</u></p>
	<p>あなたは就きたい職業について語りますが、親に猛反対されました。親から様々な指摘を受けましたが、あなたの調べが足りず、説得することができませんでした。その時に、親が言いました。 親：「あなたは研がれていない包丁のようだね。」</p>	<p>1.ちゃんと調べればいつか夢は叶えられると励ましている。 2.あなたには隠れた才能があると信じている。 <u>3.あなたの考えは甘く、社会では全く通用しない。</u> 4.あなたの非常に温厚な性格である。 5.言葉は時に人を傷つけることがある。</p>
友人	<p>あなたは友人との話に熱中するあまり、話の流れを考慮せず、思うままに話してしまいました。そのため、友人はあなたの話を全く理解できませんでした。その時、友人が言いました。 友人：「あなたは接続の悪いインターネットのようだね。」</p>	<p>1.あなたの話し方は機械的である。 <u>2.あなたの話には脈絡がない。</u> 3.あなたの情報は時に正確である。 4.あなたの体調不良を疑っている。 5.あなたの話を理解することができず、申し訳ない。</p>
	<p>あなたは友人との秘密を別の人がうっかり話してしまいました。後日、そのことを知った友人があなたに言いました。 友人：「あなたは歩くスピーカーのようだね。」</p>	<p>1.あなたの声は大きすぎる。 2.あなたの人脈は広い。 3.秘密をこれ以上ばらされたくないの、あなたの機嫌をうかがっている。 <u>4.あなたは情報を拡散してしまう。</u> 5.あなたは伝え方が上手である。</p>
	<p>あなたは友人と一緒に買い物に行きましたが、買うものを中々決めることができず、時間がかかってしまいました。悩んだ末に購入しましたが、結局後悔しました。その様子を見て、友人は言いました。 友人：「あなたはメトロノームのようだね。」</p>	<p>1.あなたの思考に一定の規則性がある。 2.あなたの考え方には柔軟性がない。 3.あなたは感情の起伏がほとんど見られない。 4.脈絡のない喩えを言うことであなたの気を紛らせようとしている。 <u>5.あなたの判断は常に揺れ動いており、定まらない。</u></p>

	<p>あなたは友人と待ち合わせをしていましたが、途中で道に迷ってしまい、集合時間に間に合いませんでした。慌てて到着したあなたを見て友人は言いました。</p> <p>友人：「あなたは壊れたコンパス（方位磁針）のようだね。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.あなたの頼りがいのなさに不安になっている。 2.方角を理解する重要性を伝えている。 3.集合場所にたどり着くまでのあなたの行動を批判している。 4.あなたの一連の行動は不自然である。 5.あなたの方向感覚はあてにならない。
	<p>あなたは、ちょっとしたことで友人と喧嘩になってしまいました。後日、友人は喧嘩のことについて謝りましたが、あなたは気持ちの切り替えができず、何も言わずに立ち去ってしまいました。その時、友人は言いました。</p> <p>友人：「あなたは絡まった糸のようだね。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.事態が難解すぎて、状況把握が難しいと思っている。 2.自分の謝り方が良くなかったと深く反省している。 3.あなたは糸のように弱々しい存在である。 4.あなたは複雑で簡単に解きほぐせない状態である。 5.あなたとの関係がこじれてしまった。
上司	<p>あなたは会議で上司から意見を求められました。しかし、自分の意見を言うのにためらいがあり、他の方の意見に賛同することとしました。その返答を聴いて、上司が言いました。</p> <p>上司：「あなたは海の上に浮かぶ帆船のようだね。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.あなたは常に危険な状態にある。 2.あなたは周りの意見に流されやすい。 3.何かきっかけがあればあなたは前に進むことができる。 4.会議中にも関わらず、旅行気分のあなたをとがめている。 5.大船に乗った気持ちで会議に参加してほしい。
	<p>あなたは職場であるミスをしてしまいました。そのミスを引きずってしまい、また別の仕事でもミスをしてしまいました。その様子を見て、上司が言いました。</p> <p>上司：「あなたは雪崩のようだね。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.今回のミスはそこまで気にするほどのことではない。 2.ミスの連続は成長して勢いをつけるチャンスである。 3.あなたは一度崩れてしまうと、他のことも崩れ始めてしまう。 4.あなたは組織が崩壊しかねない重大なミスをした。 5.まずは事態を整理することから始めようとアドバイスしている。
	<p>あなたはいつも期限ぎりぎりになって書類を提出しています。そのため、期限前には非常に慌てた様子で書類作成に取り組んでいます。その様子を見ていた上司が言いました。</p> <p>上司：「あなたは映画のクライマックスのようだね。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.あなたは終盤になって動き出すタイプだ。 2.あなたは時間制限があることで力を発揮する。 3.慌てた様子を見ているのが面白い。 4.あなたのテンションは非常に高い。 5.どのような書類が出来上がるのか、これからの展開にワクワクしている。
	<p>新入社員であるあなたは仕事に大きなあくびをして、ウトウトしてしまいました。中々仕事に集中できていないあなたの様子を見て、上司が言いました。</p> <p>上司：「あなたは風船のようだね。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.ウトウトしていることに何とか気づいてほしいので、回りくどく伝えている。 2.あなたは儂い存在である。 3.あなたは無邪気な性格である。 4.仕事に対する責任感がなく、浮ついている。 5.あなたは上り調子である。

	<p>あなたは職場で新規事業のプランについてプレゼンしましたが、周囲から計画性がないと指摘されました。その場面を見て、上司は言いました。 上司：「あなたのプランは霧の中を歩いているようなものだよ。」</p>	<p>1.将来的な見通しが全く立っておらず、曖昧である。 2.プランを実行するには入念な準備が必要である。 3.プランに見通しを持たせるのは困難である。 4.新規事業であるからうまくいかないのは当然である。 5.事態を穏便に収めようとしている。</p>
--	---	--

注) 解釈において、正答には下線を引いている。

Table 4. 提示した場面とその解釈 (皮肉表現)

登場人物	場面	解釈
親	<p>あなたは夕食の準備を任されましたが、味付けを間違えて料理はとても塩辛くなってしまいました。家族が一口食べて顔をしかめています。親が笑いながら言いました。 親：「天才的な味付けだね！」</p>	<p>1.あなたの料理の才能を褒めている。 2.美味しさのあまり、笑いが込み上げてきている。 3.あなたの料理が失敗であったとからかっている。 4.家族にとって味はそれほど重要でないと伝えている。 5.あなたが料理に挑戦した勇気を評価している。</p>
	<p>洗濯物を干すように頼まれていましたが、洗濯物のしわを伸ばさずに干しました。干された洗濯物を見て親は不満そうに言いました。 親：「洗濯物のしわに気づかないほど集中していたんだね、素晴らしい。」</p>	<p>1.洗濯物を干してくれたことに感謝している。 2.洗濯物のしわを伸ばさなかったことを暗に責めている。 3.洗濯物のしわなんて関係ない。 4.洗濯物を干した行動力を評価している。 5.あなたの集中力の高さに感心している。</p>
	<p>あなたは家族との約束の時間に遅刻しました。その時、親は呆れた様子で言いました。 親：「あなたはいつも余裕そうだね。その姿勢、見習いたいよ。」</p>	<p>1.あなたの余裕ある態度を褒めている。 2.遅刻したことをとがめている。 3.何とか時間に間に合おうとしたあなたの努力を評価している。 4.遅刻を特に気にしていない。 5.自身の生活態度を見直す重要性を感じている。</p>
	<p>あなたは部屋の掃除を任されましたが、ゴミや汚れが多く、掃除に時間がかかってしまいました。その様子を見て、親は呆れた表情で言いました。 親：「あなたの部屋はテーマパークのようで楽しそうだね。」</p>	<p>1.掃除した努力を労っている。 2.部屋が汚いことを揶揄している 3.掃除を手伝おうとしている 4.あなたの部屋に住んでみたい 5.掃除しがいのある部屋だ</p>

	<p>あなたはテスト勉強を全くせず、ゲームに夢中になっていました。その結果、テストで低い点数を取ってしまいました。その結果を見て、親は冷たい表情で言いました。 親：「あなたの将来が楽しみだね。期待しているよ。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.あなたの勉強に対する姿勢を称えている。 2.勉強しなかったことを暗に責めている。 3.結果が振るわなかったことのフォローをしている。 4.ゲームの事で大成するのではないかとワクワクしている。 5.あなたの勉強に対するやる気をなんとか引き出そうとしている。
友人	<p>あなたはカラオケで音程を大きく外しました。歌い終わると友人が笑いながら言いました。 友人：「プロの歌手もびっくりだよ！」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.あなたの歌声に感動している。 2.音程を外したことをからかっている。 3.あなたを勇気づけようとしている。 4.歌い切った努力を褒めている。 5.プロの歌手を目指すように促している。
	<p>友人との食事中、あなたはグラスを倒し、飲み物をこぼしてしまいました。その結果、料理が台無しになってしまいました。その時、呆れた表情で友人は言いました。 友人：「あなたは場を盛り上げるの上手だね。見習いたいよ。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.あなたのテーブルマナーを称賛している。 2.飲み物をこぼした失敗をあざ笑っている。 3.盛り上げ上手になりたい。 4.楽しい雰囲気は何とか保とうとしている。 5.自分も不注意であったと反省している。
	<p>あなたは友人に料理を振る舞いましたが、焦げて食べられない状態でした。その料理を見て、友人は笑いながら言いました。 友人：「新しい料理を発明したのかな？流石だね。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.新しい料理を前にワクワクしている。 2.自分で料理をすれば良かったと後悔している。 3.新しい料理と捉えることで、自分を鼓舞している。 4.料理は見た目では決まらないことを伝えている。 5.料理の失敗を冷やかしている。
	<p>あなたは友人との会話で勘違いをしたまま、話を進めていました。後々、話が噛み合わなくなったため、勘違いをしていたことに気が付きました。その様子を見て、友人は笑いながら言いました。 友人：「そんな勘違いをする人中々いないよ、ある意味才能だね。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.あなたの発想力に感心している。 2.勘違いしたことをからかっている。 3.自分の表現も適切ではなかったと反省している。 4.あなたをとにかく励ましたいと思っている。 5.あなたと話をすることにうんざりしている。
	<p>あなたは友人とチームを組み、ゲームをしています。あなたがミスをしてしまい、試合に負けてしまいました。その時、友人は少し冷たい表情で言いました。 友人：「あなたはエンターテイナーだね。本当にすごいなあ。」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.あなたのエンターテイナーとしての素質に感心している。 2.あなたのミスを暗に責めている。 3.あなたを何とかフォローしている。 4.自分の技術の低さを悔やんでいる。 5.試合の勝敗を気にしていない。

上司	<p>あなたは職場の上司から資料作成を任せましたが、誤字脱字が多く、数字のミスが目立ちました。上司は資料を見て言いました。 上司：「斬新な資料だね。このような資料は見たことがないよ。」</p>	<p>1.資料の出来に感心している。 2.今までにない資料を作成したあなたを高く評価している。 <u>3.ミスの多さを暗に指摘している。</u> 4.資料作成を任せるのは早かった。 5.次の機会に改善すればいい。</p>
	<p>あなたは職場のミーティングである企画についてプレゼンしましたが、準備不足のあまり、説明が支離滅裂でした。発表を聞いた上司は冷たい表情で言いました。 上司：「あの状態で発表するなんて度胸があるね。感心したよ。」</p>	<p>1.プレゼンをした勇気を褒めている。 2.プレゼン中の態度が素晴らしかったと感じている。 <u>3.もっと準備をすべきだったと暗に批判している。</u> 4.落ち込まないようにあなたを気遣っている。 5.自分には発表する度胸すらなかったと自己理解を深めている。</p>
	<p>あなたは寝坊してしまい、会社の出勤時刻に間に合いませんでした。慌てて出勤するあなたの様子を見て、上司は不満そうに言いました。 上司：「ゆっくり朝起きることができなんて羨ましいよ。」</p>	<p>1.あなたは寝不足である。 2.遅刻についてあまり気にしていない。 <u>3.遅刻したことを暗にとがめている。</u> 4.あなたが遅刻を気にしすぎないように励ましている。 5.遅刻を許してしまう雰囲気を作ってしまったと反省している。</p>
	<p>新入社員のあなたは職場の大事な会議で居眠りしてしまいました。会議終了後、上司は怒った表情で言いました。 上司：「あなたは非常にリラックスしているようだね。余裕があって素晴らしい。」</p>	<p><u>1.居眠りしたことを冷やかしている。</u> 2.リラックスできる姿勢を見習いと思っている。 3.あなたが職場の環境に慣れたと思い、安心している。 4.日々の業務の疲れを労っている。 5.今後改善を期待している。</p>
	<p>あなたは重要な資料を誤って捨ててしまいました。その結果、周りの人に迷惑をかけてしまいました。その様子を見て、職場の上司は言いました。 上司：「整理整頓が得意で本当に感心するよ。」</p>	<p>1.あなたを綺麗好きである。 2.整理整頓の重要性を痛感している。 3.資料がない喪失感で放心状態にある。 4.ミスに固執せず、切り替えを促している。 <u>5.資料を捨てたことを暗に責めている。</u></p>

注) 解釈において、正答には下線を引いている。

Table 5 各変数の記述統計量

	Mean (SD)	range		Mean (SD)	range
二重拘束的体験	2.32(0.83)	1-5	確信度 (比喩)		
解釈適切性スコア (比喩)			合計	3.47(0.88)	1-15
合計	10.88(3.72)	1-15	親	3.55(0.90)	1-5
親	3.50(1.40)	1-5	友人	3.44(0.90)	1-5
友人	3.46(1.45)	1-5	上司	3.60(1.11)	1-5
上司	3.92(1.36)	1-5	確信度 (皮肉)		
解釈適切性スコア (皮肉)			合計	3.55(0.86)	1-5
合計	11.68(4.03)		親	3.55(0.90)	1-5
親	4.00(1.36)	1-5	友人	3.49(0.88)	1-5
友人	3.74(1.59)	1-5	上司	3.60(0.93)	1-5
上司	3.20(1.29)	1-5			
発言のしやすさ					
親	3.48(1.17)	1-5			
友人	2.99(1.20)	1-5			
上司	2.08(1.11)	1-5			

Table 6 相関分析の結果 (比喩)

	1	2	3	4	5	6	7	8
1.二重拘束的体験	—							
解釈適切性スコア								
2.合計	-.243**	—						
3.親	-.217*	.883***	—					
4.友人	-.272***	.886***	.671***	—				
5.上司	-.149	.875***	.658***	.658***	—			
確信度								
6.合計	-.025	.392***	.303***	.373***	.359***	—		
7.親	.040	.350***	.289***	.338***	.296***	.955***	—	
8.友人	-.082	.374***	.262**	.363***	.365***	.970***	.891***	—
9.上司	-.039	.420***	.339***	.394***	.375***	.808***	.691***	.763***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

Table 7 相関分析の結果（皮肉）

	1	2	3	4	5	6	7	8
1.二重拘束的体験	—							
解釈適切性スコア								
2.合計	-.220**	—						
3.親	-.204*	.903***	—					
4.友人	-.159	.901***	.738***	—				
5.上司	-.253**	.886***	.720***	.693***	—			
確信度								
6.合計	-.039	.324***	.293***	.283***	.325***	—		
7.親	-.068	.294***	.257**	.250**	.307***	.968***	—	
8.友人	-.022	.261**	.244**	.241**	.240**	.963***	.919***	—
9.上司	-.065	.375***	.341***	.320***	.383***	.948***	.870***	.857***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

Figure 1. 二重拘束的体験尺度のヒストグラム

